

JCE7 分科会 スモールグループ・セミナー  
「神と人を愛する小さな群れを目指して」

聖書を読む会 総主事 島先 克臣

キリスト教会が生まれてから 300 年もの間、教会には「会堂」がなく、たびたび迫害を受けていた。しかし、その 300 年間に教会はローマ帝国内で確実に広がり、国教にまでなった。

## I スモールグループの大切さ

### A 主イエスはスモールグループで弟子を育てた

十二人と飲食を共にしながら訓練（マコ 3:14-15）、特別に教育（マコ 9:34 以降）、派遣（マコ 6:7）、エルサレムで起こることを話す（マコ 10:32 以降）、過越の祭りを祝う（マコ 14:17 以降）。大切な働きを担う人材を育てるのは、少人数でしかできない。

### B 教会はハウスグループによって構成されていた

家々でパンを割き、食事をする（2:46）、パウロが荒らした家々にある教会（8:3）、ペテロのために家で祈る（12:5、12）、親族や親しい友人を含むコルネリウスのハウスグループ（10:2、24）、兄弟たちが集まるリディアのハウスグループ（16:40）、宣教の拠点となるコリントのハウスグループ（18:1-4、7、11）、ローマ教会のハウスグループ（ロマ 16:3-16）、長老たちが導くハウスグループ（14:23）。当時、一つの町にあった教会は、いくつかのハウスグループによって構成されており、その全体を長老たちが導いていた。

### C まとめ

主イエスの時も、初期の教会も、クリスチャンはスモールグループで訓練され成長した。スモールグループ、ハウスグループこそが教会の力、成長の源だった。スモールグループはみことばを中心に人と人が出会い、心を開き、愛し合う場。神の愛と赦しはその土台。

## II ハウスグループは「神と人を愛した小さな群れ」

### A ハウスグループの機能：神と人を愛すること

食事とパン裂き（2:46）、礼拝と賛美、祈り会（12:5）、宣教と教育（5:42）、旅人をもてなす、愛の実践（2:44-45、9:36-39、その後の教会の歴史）。これは、一言で表すと、神と人を愛すること。それはイエスの教えの中心（山上の教え）。

### B 教会の成長はイエスの教えに従い愛を実践した結果

当時のハウスグループはイエスの教えに聞き従った結果、「神と人を心から愛する小さな群れ」となり、その小さな群れの生き様、愛の実践が、ローマ社会の人々を魅了し、ローマの異教文化を内側から変革し、300 年の間に帝国全体を大きく変えていった。

## III クリスチャンは旧約聖書のメシア像を理解した（聖書を読む会『神のご計画』参照）

### A メシアを待望していたユダヤ人

マリア、アンナ、シメオン、バプテスマのヨハネ、正しいメシア像を説く使徒たち（例：ペテロの説教 2:14-36、3:12-26）。「イエスこそが旧約聖書が預言したメシア」

### B なぜ正しいメシア像が重要？

旧約聖書が述べるメシアの使命：「この地上全体を神への愛と、人への愛で満たすこと」。イエスの十字架、復活、昇天、即位、聖霊の派遣は、その使命を果たすため。イエスの手足であるクリスチャンは聖霊により頼んでそれを目指す。これは包括的福音理解とすることもできる（クリス・ライト、ケープタウン決意表明、OMF、センド宣教団）。自らこのような弟子となり、このような弟子を生み出すのが大宣教命令。